



# おおみや トピックス



市HP内掲載記事へ

大宮町の人口

年齢	R2.10末(前月比)
0歳～14歳	1,298人(+1)
15歳～64歳	5,767人(+10)
65歳～	3,042人(-6)
合計	10,107人(+5)

## 現役世代が考える「暮らしやすい」

### 五十河地区ワークショップ

五十河地区に在住の30代～50代の区民を対象としたワークショップが11月7日、21日に五十河地区基幹集落センターで開催されました。同地区は20年後に人口が半数程度まで減少することが予想されています。今回のワークショップはそのような将来を見据え、現役世代の区民が集まり「暮らしやすい」を考えたようにテーマに、自分と集落との最適な関係を、みんなで作ることを目的としたものです。実施にあたり、話し合いを円滑に進めるため、京丹波町で地域と連携し同様の取り組みを行っているNPO法人ムラツムギや、平成25年度より同地区で活動している龍谷大学政策学部と連携し実施されました。

第1回目(11月7日開催)は、将来に対する認識の共有を行うために「将来心配なこと」をそれぞれ付箋に書き出し、それを模造紙に貼り、意見交換を行いました。第2回目(11月21日開催)は、同地区よりもさらに過疎化が進んでいる他地域の事例を紹介し、参加者自身が「いま大変だと思っていること」の書き出しとそれをどのようにして改善・軽減していくかについて話し合いました。今回の結果を踏まえ、同地区における「暮らしやすい」を考へるワークショップを、今後にも継続して実施される予定です。



付箋と模造紙で意見を共有します

## 地域の防災力向上へ

### 避難所運営研修の実施

大宮町では昨年度より、有事の際の大宮町版避難所運営マニュアル(以下、マニュアル)を作成することを目的に、各区長および自主防災会が龍谷大学政策学部石原凌河准教授とそのゼミナールに所属する学生と連携し、避難所運営研修(以下、研修)を行っています。2年目となる今年度は、新型コロナウイルス感染症対策をマニュアルに反映することを目的に、大宮町区長協議会が主体となり、全4回の研修を予定しています。

10月15日に実施された第1回目の研修では、前年度の振り返りと、現時点でのマニュアルの原案の提示がありました。11月26日に実施された第2回目の研修では、大宮中学校を会場に実施予定の第3回目の研修である『避難所運営訓練』の内容について検討しました。現在第3・4回目の研修



研修第2回目の様子

## 持続可能な活動に

### サクラソウの植付

例年3月には、奥大野区内など大宮南地域の沿道には色鮮やかな花びらを付けたサクラソウが配置され、地域を明るく彩ります。これは奥大野村づくり委員会が始めた取り組みで、20年以上継続して取り組まれています。11月28日、29日、区民が手作業で約700個のプランターにサクラソウの苗を植えました。プランター1つにつき、3本の苗を植え付けるため、約2100本以上の苗が必要となります。今回植え付けられた苗は、全て前年度のこぼれ種を使用し、各区民宅で苗になるまで育てられたものです。

奥大野区川口区長は「この取り組みはコストがかからない。持続可能な活動にするためには、コストのかからないことが大切」と話していました。



11月28日の様子です(上)  
開花日が楽しみです(下)

## 大宮の魅力 次世代に繋ぐ

### 小町の里生産組合出前講座

11月13日、三重、森本区の農業者9名で構成される『小町の里生産組合』が大宮第一小学校5年1組に講師として招かれ、代表の芦田完二さんと副代表の田崎喜芳さんが『お米の生産』をテーマに出前講座を行いました。同校5年生は、総合的な学習の中で『美味しいお米の作り方』について学習をされています。その中で、児童から「農家さんの工夫があつて美味しい米ができています」との意見があり、直接農家をインタビューし、米作りに関する疑問に回答してほしいという要望を受け、出前講座開催に至ったそうです。

#### 小町の里生産組合 取組紹介

- ・ 稲わらのすき込み
  - ・ 冬季湛水の実施
  - ・ 有機質肥料を利用した土作り
  - ・ 生物多様性のためのひよせ作り
  - ・ 『ゲンゴロウ郷の米』ブランド化
- ほか



出前講座の様子

出前講座では、初めに同組合の取り組みを紹介し、事前に準備された児童たちの質問に回答しました。児童からは米作りの技法に関する質問だけでなく、農家としての思いや後継者問題について尋ねられる場面もありまし

## 丹後初冬の風物詩

### 平地地蔵が冬の装いに

11月23日、上常吉地内に位置する平地地蔵に、藁（わら）で作られた蓑（みの）、頭巾が手作業で着せられ、冬の装いとなりました。

平地地蔵は天保4年3月、平地峠の頂上に建てられました。同地内の谷にあつた約5坪の石に、峰山町鱒留の石工松助氏が彫刻し、峠を往來する行人や地域の人々の安全を祈ったとされています（諸説あり）。みなさんも是非ご覧ください。



頭巾が被せられます（左）／平地峠を見守ります（右）

### コロナ禍以前の賑わいを 周枳公民館前で朝市開催

11月1日、周枳公民館前グラウンドで朝市が開催されました。コロナ禍で売り上げが減少した区内の店舗や農事組合などの、商品や野菜が並びました。午前10時、中西区長の開会宣言でスタートした朝市は、約100名の来場者で賑わいました。



多くの来場者で賑わうテント

## 新宮区で新たな生命が誕生

### 山本 一弦くん（父：佑太さん 母：祐美さん）

新宮区で、新たな生命が誕生しました。山本一弦くんです。一弦くんの父：佑太さん、母：祐美さんは町外から5年前に移住されました。同区での住み心地を尋ねると「肩の力を抜いて生活できる。道幅が広く運転しやすい。1番は降雪日の出勤時、早朝にも関わらず除雪が完了していたこと。小さい山奥の地区は後回しにされると思っていたから優遇されているなど思った」と話していました。また今後について尋ねると「五十河地区に若い人がもっと住んでほしい。新宮の現状に危機感を持ち、問題提起から行動まで周りを巻き込みながら実行をする事が必要だと思う。20年後、一弦の世代が近所に沢山住んでほしい」と話していました。



#### 新宮区データ

世帯数:10世帯 人口:21人  
平均年齢:64.4歳 (R2.10末)